

令和4年10月28日  
(2022年)

保護者の皆様

千里みらい夢学園  
吹田市立竹見台中学校  
校長 小林 太郎

### 令和4年度 全国学力学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度 全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田でも、今回実施した調査結果の概要は吹田市ホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

## 1. 教科に関する調査結果の分析

### (1) 国語

<概要>全体の平均正答率が全国平均を上回っていました。特に「読むこと」の領域での正答率が高く、日頃の学習の成果がよく表れた結果となりました。

領域	
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「課題の展開などに注意して聞く」設問について、正答率が高く、良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)どの設問でも良好な結果が得られたので、今後の学習活動の中でも、様々な場面で発言の機会を持てるよう取り組んでいきます。</li></ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「話の展開を取り上げて書く」設問は、全国平均を大きく上回りました。「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問いについて、おおよそ全国平均に達し、良好な結果でした。</li><li>◆ (課題)他の領域に比べ、「書くこと」に関する問題の無回答率が全体的に高い傾向が見られました。今後の学習において「書くこと」に対する苦手意識をなくしていくことが求められる結果となりました。</li></ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」設問では、全国の平均を大きく上回りました。</li><li>◆ (課題)どの設問でも良好な結果が得られたので、今後の学習活動の中でも、読み深めの学習に取り組んでいきます。</li></ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」問題について、よく理解できていました。</li><li>◆ (課題)行書の特徴の理解をより深めるため、書き慣れることが必要です。</li></ul>

#### 国語科における成果と今後の改善点について

「話すこと・聞くこと」「読むこと」について、特によい結果が得られました。日々の学習の中で、自分の力で考え、文章を読み取り、表現していくという学習の成果が表れていることがうかがえます。反面、記述式で答える問題は、全国的に無回答率が高くなる傾向があり、本校でも、自分の考えをまとめて書く活動を、今後も継続して行ってまいります。

## (2) 数学

### <概要>

4つの領域において、正答率が全国値を上回っていました。特に「関数」の領域での正答率が全国値より10ポイント近く高い結果となりました。しかし、「データの活用」の領域では全国値よりわずかな上回りにとどまりました。

領域	
数と式	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)すべての設問について、正答率が全国値より上回り、良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「予想した事柄を表現する」設問において、全国値をわずかに上回っていますが、無回答率も高く課題がありました。</li></ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「三角形の合同条件」「筋道を立て事柄が成り立つ理由を説明する」設問について、正答率が全国値より上回り、良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「反例の意味」を問う設問については、全国値を下回っており、今後の課題となりました。</li></ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」と「変化の割合を理解している」の設問について、正答率が高く良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」設問について、全国値よりわずかに上回っていますが、正答率がやや低く課題がありました。</li></ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「確率の意味を理解している」「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」設問については、正答率が全国値よりわずかながら上回っていました。</li><li>◆ (課題)「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」記述式の設問について、全国値よりも下回っており、課題がありました。</li></ul>

### 数学科における成果と今後の改善点について

4つすべての領域において、正答率が全国値を上回っており、生徒の日々の数学科における学習の成果と努力を確認することができました。しかし、「反例の意味を理解している」「データの偏向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」の2つの設問は全国値を下回りました。数学科で今現在行っている少人数指導やチームティーチングなど、工夫した学習の取り組みを今後も継続し、一人ひとりに対して、よりきめ細かな指導を行ってまいります。

### (3) 理科

#### <概要>

全体の平均正答率が全国平均を上回っていました。特に「エネルギー」を柱とする領域での正答率が高く、日頃の学習の成果がよく表れた結果となりました。

#### 領域

「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」設問について、正答率が高く、良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する」設問の正答率が全国平均を下回りました。今後の学習において実験結果をもとに、グラフに書くことなど、実験結果の処理への苦手意識をなくしていくことが求められます。</li></ul>
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとを指摘する」設問では正答率が全国平均を上回る結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す」設問の正答率が全国平均を下回りました。未知の化学反応式を原子モデルで考え、完成させることに課題が見られました。今後の学習においては、未知の課題をあらゆる既習事項から求める活動をより増やすことが求められる結果となりました。</li></ul>
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「生物 X が昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する」設問では正答率が全国平均を上回る良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「ダイオウムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所は移動の仕方と関連付け、その理由を説明する」設問では正答率が全国平均を下回りました。今後の学習活動では、知識を関連付け、考えを文章化することへの苦手意識をなくしていくことが必要です。</li></ul>
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"><li>● (成果)「上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する」設問では、全国平均を大変大きく上回る良好な結果が得られました。</li><li>◆ (課題)「地上の B 地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する」設問では全国平均を下回りました。今後の学習活動では、他者の考えを検討し、より良い考えを示していく活動を増やしていくことが求められます。</li></ul>

### 理科における成果と今後の改善点について

全体的に全国平均を上回る良好な結果が得られました。日々の学習での粘り強く学習している成果が表れていることがうかがえます。

反面、既習事項や、他者の推論をもとに正しい説明を言語化する問題は、全国平均を下回る場所もありました。本校でも、さまざまな事柄を整理し、他者との話し合い活動のなかから正解にたどり着く活動を、より一層行ってまいります。

## 2. 生活習慣や学習環境に関する調査の分析

### <調査の結果>

自分自身のことについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「自分にはよいところがある」について、全国値とほぼ同じでした。</li> <li>◆ 「自分でやると決めたことは、やり遂げる」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っているときは、進んで助ける」「将来の夢や目標を持っている」について、全国値よりも下回っていました。</li> </ul>
学校生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」について、全国値を上回っていました。</li> <li>◆ 「友達と協力するのは楽しい」「学校へ行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「いじめは、どんな理由があってもいけない」について、全国値よりもやや下回っていました。</li> </ul>
家庭生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「朝食を食べている」について、全国値とほぼ同じでした。</li> <li>◆ 「毎日、同じ時間に寝る」「毎日、同じ時間に起きる」「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」について、全国値よりもやや下回っていました。</li> </ul>
家庭学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」について、全国値を上回っていました。</li> </ul>
地域活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「地域の行事に参加していますか」「地域や社会のために何をすべきか考えることがある」について、全国値よりも下回っていました。</li> </ul>

### 課題について

自分にはよいところがあると認めること、将来の夢や目標を持つことなど、自分自身について自信を持ち、将来に向かって進む力に課題があります。

## 3. 今後の取り組み

本調査の各教科の設問ごとの分析や、生徒質問紙からの学習環境状況を重ね合わせて分析した結果をもとに、今後も改善に向けた取り組みを引き続き進めていきたいと考えます。

学習に対する取り組みについては、学習活動の振り返りについての課題改善に向け、本校においても授業規律・生活規律を確立したうえで、きめ細やかな指導を継続し、学ぶ意欲を高める授業づくり、わかる授業の工夫など具体的な指導法の改善に取り組んでいきます。

家庭学習においては、自分で計画を立てて勉強することについては、例年全国値よりも上回っていますが、基本的な生活習慣を確立し、自尊感情や自己肯定感を高め、自信を持つことに課題があり、自主的に学習に向かう姿勢を育てていきたいと考えております。生徒の自立と幅広い学習の機会をつくるため、今後ともご家庭・地域と連携して教職員一同努力してまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。